

自主防災会が抱える課題に対して自主防災会が行うべき対策例 (湖西市地域防災指導員回答)

防災対策に適切はあっても正解は無い。地域の実情に合ったものを地域で考え、皆で自主防災会組織を作りあげる。

I. 安否確認

①分類

1. 人員の分類の仕方が分からない

- A. 市が示した台帳の作成例を参考に分類をし、分類を皆で共有する。
- A. 分類の意味と必要性を知る（災害時の対策のために分類が必要）。
- A. 安否確認を最優先とする分類とする。
- A. 災害時の自主防災会の対応に応じた分類とする。

②取りまとめ

2. プライバシーの問題があり、人員点呼で戸惑う

- A. 手挙げ方式による台帳整備を行う。
- A. 災害時での必要性（特に安否確認）を根気よく説得し、理解してもらおう。
- A. 組（班）単位で報告してもらおう。

3. 取りまとめる担当によってバラつきがある

- A. 台帳を活用するなど、確認方法を皆で共有する。
- A. ルール決めとマニュアル化を行う。
- A. 事前の説明や準備を徹底する。

II. 訓練

①参加者

4. 参加者が消極的（積極性がない）

- A. 町内会の組（班）で訓練を行う。

5. 参加者に緊張感が欠ける

- A. 地域住民に大震災（阪神淡路・東日本など）の映像を見せる。

6. 参加者が少ない（特に若年層）

- A. アウトドア風の訓練を組み入れる。

自主防災会が抱える課題に対して自主防災会が行うべき対策例 (湖西市地域防災指導員回答)

7. 外国人の訓練参加が難しい

- A. 外国語を話せる人を探し、自主防災会役員や訓練に入れる。
- A. 職場への働きかけを行う。
- A. プラカードなどで工夫する。
- A. 自治会（町内会）で実態を把握する。

4～7. 共通

- A. 訓練の企画で工夫する。
- A. 訓練の重要性を何度も啓発する。
- A. 地域の災害特性を知り、実践に即した訓練計画をする。
- A. 参加者全員に役割りを分担させ、責任を持たせる。
- A. イベント性を持たせ親子での参加を促す。
- A. 各種団体の協力を得て、様々な視点を取り入れて協働で訓練計画を立てる。
- A. 口コミを利用する。

②訓練・企画

8. 訓練がマンネリ化している

- A. 役員の任期を2年以上とし、PDCAによる訓練企画をする。
- A. 繰り返し訓練することの重要性・基礎訓練の重要性を啓発する。
- A. 野外宿泊訓練などを取り入れる。

9. 実効・有効な訓練が企画できない

- A. 地域内でアンケートを取る。
- A. 地域を知り、地域で起こり得る災害に合った訓練企画をする。

10. ノウハウの不足

- A. 県や市が行う講習会や講演会に積極的に参加する。
- A. インターネットに掲載されている情報を参考にする。
- A. ノウハウを持つ地域防災指導員、消防・防災経験者などを把握・活用し、情報を積極的に入手する。

11. スタッフの不足

- A. 必ず一世帯につき一人以上の訓練参加を依頼する。
- A. 地域内の人材を探す。
- A. ノウハウを持つ地域防災指導員、消防・防災経験者などを把握・活

自主防災会が抱える課題に対して自主防災会が行うべき対策例 (湖西市地域防災指導員回答)

用し、活動班単位で訓練計画や町内会や組（班）などの下部組織を活用する。

12. 自主防災会組織が会長任せになっている

- A. 自主防災会内での話し合いが必要。
- A. 役員全員で訓練計画を立てる。
- A. 自主防災会組織の見直しを図る。
- A. 活動班ごとに訓練計画を立てるなど、下部組織を活用する。

13. 資機材の不足

- A. 市の補助金制度を活用する。
- A. 最低限必要な資機材を洗い出す。
- A. 計画的に購入する。
- A. 個人で持っている資機材も活用する。
- A. 自主防災会費の見直しを図る。

14. 訓練実施のための費用が足りない

- A. 市からの訓練交付金の使途を見直す（役員の飲食に使ってないか）。
- A. 自治会（町内会）費から支援を受ける。
- A. 自主防災会費の見直しを図る。

15. 9月の総合防災訓練と12月の地域防災訓練以外の組別や対策班別の個別訓練や地域による災害特性に応じた訓練などを行っていない。

- A. 各月など定期的に訓練を行う。
- A. 小さな訓練でもいいので、実施してみる。

9～16. 共通

- A. マニュアルを作成する（発災前の減災マニュアルと発災から1週間くらいまでの時系列のマニュアル）。
- A. 地域防災指導員の協力を得て訓練計画を立てる。
- A. 他の自主防災会の訓練を見学する。
- A. 訓練計画の段階から、婦人会など他の団体と協議する。
- A. 様々な会合の際に人員の発掘を心がける。
- A. 訓練について役員で事前に勉強をする。

自主防災会が抱える課題に対して自主防災会が行うべき対策例 (湖西市地域防災指導員回答)

③内容

16. 避難所運営訓練を実施していない

- A. 地域から地域防災指導員を市に推薦する。
- A. 地域防災指導員に協力依頼する。
- A. 学校の協力を得て、生徒、住民、自主防災会による宿泊訓練を行う。

17. 災害図上訓練を実施していない

- A. 地域から地域防災指導員を市に推薦する。
- A. 地域防災指導員に協力依頼する。

18. 夜間訓練を実施していない

- A. 地域から地域防災指導員を市に推薦する。
- A. 地域防災指導員に協力依頼する。

19. 実災害を想定したシナリオのない訓練を実施していない

- A. 夜間避難訓練など実施し易いことから初めてみる。

16～19. 共通

- A. 訓練マニュアルを作成する。

Ⅲ. 啓発

20. 地域住民の防災意識の希薄

- A. 災害時の自助の大切さを啓発する。
- A. 常に言葉に出して啓発する。

21. 一次避難所・二次避難所を知らない住民がいる

- A. 防災講座や回覧等で啓発する。
- A. 組（班）単位で教える。
- A. 安全確認カードに組（班）長が記入し、配布する。
- A. 各戸に位置図を配布し、集会場などに掲示する。

Ⅳ. 資機材等

22. 資機材（特に駆動系）の操作が不十分またはできない

- A. 消火班員は出来るように定期的に操作訓練を行う。

自主防災会が抱える課題に対して自主防災会が行うべき対策例 (湖西市地域防災指導員回答)

- A. 常時点検・操作を輪番制で行う。
- A. 担当者を決めて定期的に点検する。

V. 情報受伝達

23. 地域内での連絡がうまくとれない

- A. 同報無線子局スピーカーを活用（無線法適用外免許者以外利用可能）する。
- A. 連絡場所・手段を決めて、ルール化しておく。
- A. 普段から近所付き合いを大切にする。
- A. 文書でのやり取りや自主防災会でトランシーバーを活用するなど、様々な連絡手段を確立させる。

VI. 組織

①体制

24. 自主防災会の組織体制が不十分または不明確

- A. 自主防災会内で話し合いを行い組織強化するとともに、組織体制を明文化する。
- A. 地域防災指導員に協力を依頼する。
- A. 市が提示する組織案を参考する。

25. 地域の防災計画・マニュアル等が不十分または未整備

- A. 自主防災会内で話し合いを行い計画・マニュアルを作成するとともに明文化する。
- A. 市の作成例を参考に作成する。
- A. 地域防災指導員に協力を依頼する。
- A. とりあえず作成し、順次改良していく。

26. ノウハウの不足

- A. 自主防災会で勉強会を開催する。
- A. 防災経験者やインターネットを活用し、積極的に情報収集する。
- A. 地域内の人材を探し、活用する。

27. 自主防災会の加入戸数が少ない

- A. 他の自主防災会に合併を申し出る。

自主防災会が抱える課題に対して自主防災会が行うべき対策例 (湖西市地域防災指導員回答)

A. 他の自主防災会と協働で訓練を行う。

28. 高齢者や一人暮らしが多く、防災に関する理解が進まない

A. 熱意を持って根気よく啓発する。そのためにも、自主防災会で防災について学習する。

A. 防災講座を継続的に実施する。

A. 大量の情報を与えるのではなく、自助のために必要な情報のみ啓発する。

A. 防災だけではなく、地域ぐるみでの見守り活動の中で啓発する。

A. 個別訪問して理解を得る。

29. 役員を若年層が引き継ぎできない

A. できないのではなく、させていない。

A. お祭りや消防団、子供会、PTA 組織などを活用する。

30. 会長が実災害時に地域に居ない可能性がある

A. 会長不在の場合の代理者（地域に居る可能性がある人）を決め、連絡方法などを明文化する。

A. 会長の代理を何段階にも分け作っておく。又は数パターンの連絡網を作っておく。

A. 会長の人選方法を見直す。

31. 役員等仕事があり、防災について検討する場を設けにくい

A. 役員全員が集まらなくても、少人数でも行う。

A. 文書やホームページ、メール、電話などで意見を集約する。

32. 会社員等が多く、平日昼間に発災した場合活動困難

A. 平日昼間地域に居る可能性がある人（女性や中学生、地域内の事業所も活用）を把握し、その人達だけの活動班を作っておく。

A. 実情に合わせた防災計画の立て直しを行う。

A. 平日昼間地域に居る人だけで訓練を行ってみる。

A. 自助・共助の啓発を行う。

A. 役員に平日昼間地域に居る人を選出する。

33. 前任の会長から引き継ぎがなされていない

A. 引き継ぎを前任者から待つのではなく、現会長が引き継ぎを積極的

自主防災会が抱える課題に対して自主防災会が行うべき対策例 (湖西市地域防災指導員回答)

に行う。

- A. 引き継ぎ方法を決めて、明文化しておく。
- A. 自主防災会組織全体で自覚を持つ。
- A. 引き継ぎのファイル（マニュアル）を作成する。
- A. 会長の任期を見直す。
- A. 引き継ぎが出来る役員体制とする。

34. 役員に女性がいない

- A. 婦人会役員や保健推進委員などを充て職で自主防災会組織に組み込む。
- A. 炊き出し班など必ず班長に女性を充てるなど工夫をする。
- A. 役員の人選方法を見直す。

②台帳

35. 台帳（組織・世帯・人材・要援護者・津波）の整備が不十分または未整備

- A. 市が示した台帳の作成例を参考に整備をする。
- A. 台帳整備の目的を明確にして、整備の理解を得る。
- A. 組（班）組織を活用する。

36. 台帳に記載されるべき人を把握できない

- A. 手挙げ方式で調査する。
- A. 世帯全員ではなく、最低限世帯主と世帯数が分かる台帳を作成する。
- A. 各組（班）などの下部組織を活用する。

37. 自治会（町内会）に入っていない外国人を把握できない

- A. 地域内の事業所に協力を求める。
- A. 通訳が出来る者を連れ、外国人宅へ個別訪問する。

38. 台帳を整備する体制・組織がない

- A. 全世帯に協力を仰ぐ。
- A. 自治会や町内会の協力を得る。
- A. 組（班）などの下部組織を活用する。

③地域の把握

39. 自主防災会で地域の危険箇所を把握していない

自主防災会が抱える課題に対して自主防災会が行うべき対策例 (湖西市地域防災指導員回答)

- A. DIG（災害図上訓練）を行い、地域を知り、弱点を知る。
- A. 地域内を歩いて危険箇所を地図に書き込む。
- A. DIGで作成した地図を集会場などに掲示する。
- A. 地域住民に聞くなど、地域の情報を積極的に入手する。

40. 地域内の事業所や福祉施設など関係機関との連携が取れていない

- A. 訓練を協働で行う。
- A. 定期的に交流会を行う。
- A. 年度当初に挨拶に行く。

41. 実災害時に対応できない自主防災会がある

- A. 自主防災会の役割りを正確に理解し、地震だけではなく風水害などを含めた体制作りを行う。
- A. 自覚を持つ。

VI. 避難

42. 要援護者の支援方法が難しい

- A. 市が配布した要援護者台帳を活用し、対象者を把握し、民生委員の協力を得て支援方法を考案する。
- A. 普段の近所付き合いを大切にし、地域内で信頼関係を構築する。
- A. 共助の精神を役員が勉強し、体制を整える。ただし、津波の浸水想定地域は個々の避難（てんでこ）を優先させ啓発する。
- A. 要援護者が居る組単位で、役割り分担を決めておく。
- A. 消防団など各種団体の協力を得る。

43. 車椅子やシルバーカーが避難場所に入りにくい

- A. 自治会等施設を建設する際にバリアフリーを考慮する。または、改修する。